

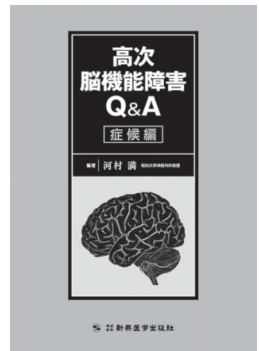
書 評

高次脳機能障害Q & A症候編

昭和大学神経内科教授

河村 満 ● 編著

九州大学大学院医学研究院神経内科学 吉良潤一



一味違った高次脳機能障害の書籍が上梓された。赤い表紙の症候編と緑表紙の基礎編が対となった高次脳機能障害Q & Aである。編著者は河村 満昭和大学神経内科教授。神経心理学の、日本は言うに及ばず世界のトップリーダーである。

高次脳機能障害の書物というと、一般臨床家にとっても神経内科医にとっても敷居が高い。聞き慣れない用語、定義がわかりにくい学術用語のオンパレードで読み通すのが難しく、手に取りにくい。読み始めても、理解のあまりの大変さに途中で投げ出す諸子も少なくないと思う。

本書は、全編が一貫して Question (Q) and Answer (A) 形式となっている。高次脳機能障害の書籍としては、画期的な構成である。設問は、日常臨床でよく疑問に思うこと、あれどうであったかなあと、ちょっと正確なところを知りたいと思うことなどがとりあげられているので、とても身近に感じられる。このため、初心者にとってもとてもわかりやすい内容となっている。体系的に高次脳機能障害を学びたいけれど、既存のものは敷居が高いという人にとっては、まさに本書はお奨めである。症候編から始まって基礎編まで読み通すと、ヒトの高次脳機能とその障害の全貌を知ることができる。他方、これまで高次脳機能障害を聞きかじってきた人にとっては、Qをみて、ただちに知りたいところ、今関心があるところを読んでもいいようになっている。

全体の構成としては、症候編は46の質問に加えて、治療・介護についてまで8つの質問が設定されている。基礎編60の設問は、基礎知識編、検査診断編に加えて、半数はトピックスに割かれている。幅広く最新の研究成果がわかりやすく紹介されていて、臨床家にとってはとても面白い内容となっている。症候の理解のためには、その基盤を知ることが大事なので、症候編のみならず基礎編まで一括して手元に置いておかれることを奨めたい。

症候編は、高次脳機能障害の症状がすべて網羅されていて、しかもQに対するAの部分は、「知っておきたい基礎知識」、「少し詳しく」、「じっくり学ぶ」の3段階になっているのは、読者にとってはありがたい。一般的な高次脳機能障害の書籍を読み通すのが大変な理由の1つは、読者のレベルに応じて、このくらい読んでおけば、あなたの知りたいレベルですよというマーキングがない点が挙げられる。一般臨床家にしてみるとあまり関心がなく、高次脳機能障害のプロになろうという人でない限り読み飛ばしても差し支えないような記述も、高次脳機能障害の一般的な書籍には含まれていることが多いが、どのあたりまで読み飛ばしてもいいのかわからなくて困ることが多い。逆に、関心があるところは詳しく読みたいのだが、どこに知りたいことが書いてあるのかわからないことも少なくない。その点、本書は優れていて、このQにつ

いては、今は「知っておきたい基礎知識」まで、こちらのQは「じっくり学ぶ」まで読んでみようということが容易にできる。読み飛ばしたQの「じっくり学ぶ」は、後でまた振り返って詳しく知りたくなったときに読み返すことができる。

著者は層が厚く、神経内科医、精神神経科医のみならず、リハビリテーション、心理の専門家まで幅広い。これだけ幅広い人材を対象にして、最も適切な人に最も適切な設問を振る河村教授の眼力に敬服せざるを得ない。Q & A形式のものは、とっつきやすい反面、つまみ食いになりがちな面があるが、本書は全体が1つの流れになるようまとめられている点もありがたい。

ユーザーにフレンドリーな点では本書の右に出る高次脳機能障害の書籍はないといえる。高次脳機能障害を初めて学びたい人、これまで途中で投げ出していた人、すべてにお奨めである。なお、本書が赤と緑の表紙になっているいわれは、基礎編の序文に書かれていて、河村教授の原風景が垣間みえて温かい気持ちにさせられる。

B 5, 頁 224, 2011 年
定価 4,410 円
(本体 4,200 円 + 税 5 %)
[ISBN978-4-88002-723-4]

新興医学出版社